11月28日（土曜日）「辱を受けても」

【新改訳 2017】

使徒　5•27-42

「そこで、使徒たちは、みなのためにはずかしめられるに値する者とされたことを喜びながら、議会から出で行った。そして、毎日、宮や家々で教え、イエスがキリストであることを宣べ伝え続けた。」（41、42 節）

「そこで」とは、この引用箇所に先んじて、詳しく書かれていることを指しています。使徒たちは、イエスの名によって不思議としるしのわざをしながら宣教し、捕えられ、禁じられても、主の使いによって留置所から出、また宣教し、とうとう議会で裁判に付されました。その時、議員の一人、ガマリエルの説得で釈放されたことです。

使徒たちは、そのような仕打ちをされても、御名のためにそうされるに値する者とされたとして、喜んだのでした。

イエス•キリストを信じて救われ、復活の主と出会い、聖霊に満たされて生きることは、侮辱や迫害を受けても、それにまさる喜びがあるのです。私たちの信仰もぜひ、そうあるように祈

りましょう。

～祈り～

主よ。キリスト者であることを恥じることがありませんように。使徒たちのように、御名のために辱めを受けるに値する者とされることを喜べますように。

【学びのために】

ルカ 12•8、9（10 月 31 日）参照。